




今日からできる3R

やってみよう!

海に広がったプラスチックを後から回収することはほぼ不可能です。プラスチックごみの問題を解決するため、普段の生活の中で3Rに取り組みましょう。

<p>リデュース Reduce 減らす</p>  <ul style="list-style-type: none"> ●マイバッグ・マイボトルを活用する ●詰め替え商品を活用する 	<p>リユース Reuse 繰り返し使う</p>  <ul style="list-style-type: none"> ●修理して使う ●フリーマーケット、バザーなどを活用 	<p>リサイクル Recycle 資源として再び利用する</p>  <ul style="list-style-type: none"> ●容器包装の表示などを確認して分別する ●再生紙を使った商品を選んで買う
--	--	---

容器包装の表示を見て分別を

やってみよう!

プラスチックごみをはじめ、いろいろな素材をリサイクルするためには、きちんと分別してごみに出すことが重要です。

容器の包装にどんな材料が使われているか識別マークを確認し、お住まいの市町村のルールに従って分別してください。



プラスチックのリサイクル方法

家庭などから集められたプラスチックごみは、リサイクル工場で作成されたプラスチック原料として生まれ変わります。リサイクル方法は、次の3種類です。

- ①【マテリアルリサイクル】プラスチックを溶かして別の製品にする。プラントナー、パレット(輸送に使うのこ状の台)、水切りネットやごみ袋などに生まれ変わります。
- ②【ケミカルリサイクル】化学処理をして別の素材にする。ガス化や、コークス炉の化学原料にします。
- ③【サーマルリサイクル】製紙工場などの燃料として利用する。再生できない古紙などと混ぜて、燃料として使います。

レジ袋が有料になりました

プラスチックを大量に消費する私たちのライフスタイルを変えるきっかけとして、レジ袋の過剰な使用を抑制するため、7月1日からレジ袋が有料になりました。ただし、環境性能が認められ、性能を表示している以下の3点を満たしているレジ袋は有料化の対象外です。海洋に流出しても影響が少ない素材の開発や転換を推進していく取り組みが進んでいます。

- ① プラスチックのフィルムの厚さが50マイクロメートル以上のもの
- ② 海洋生分解性プラスチックの配合率が100%のもの
- ③ バイオマス素材の配合率が25%以上のもの



レジ袋がなくても大丈夫! 新聞紙で簡単「生ごみ」袋

やってみよう!

レジ袋を生ごみの袋として活用していた方も多いのではないのでしょうか。古新聞でつくったごみ袋を使うと、新聞紙が水分を吸収するので、ごみが軽くなり、生ごみを濡れたまま放置したときに発生する悪臭を防げます。

作り方

- ①新聞紙2枚を重ね、下3分の1を折る
- ②裏返し、左右を3分の1ずつ折り畳む
- ③右側を、左側のポケットに差し込む(左右逆でも可)
- ④上の部分を三角に折る
- ⑤三角の部分をポケットに入れる
- ⑥上下逆さまにして開くと、完成

底を折ってマチをつくと、安定感UP!

県内での取り組み

沿岸域でのプラスチックごみを減らすため、地域住民やボランティア団体などが中心となって、海岸に漂着したごみの収集や、漁業者が漁港内に漂着したごみの回収をしています。

また、陸上でのプラスチックごみの発生を減らすため、自治体と関係団体が協力し、マイバッグやマイボトルの普及に取り組んでいます。



問 循環型社会推進課 ☎022(211)2649

2050年の海は、魚よりもごみの方が多くなる?

～よりよい環境を未来につなぐために知っておきたいプラスチック問題～

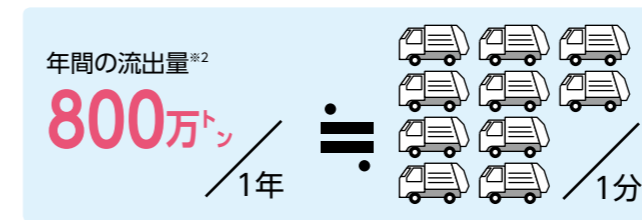
県内の海辺には、ペットボトルやウキなど多くのプラスチックごみが打ち上げられています

プラスチックは、私たちの生活を便利にしています。しかし、分解されにくい性質のため、海に流出すると長期間にわたり環境中にとどまります。

海洋プラスチックごみによる地球規模での環境汚染は生態系、生活環境、漁業、観光などへの悪影響が懸念されています。

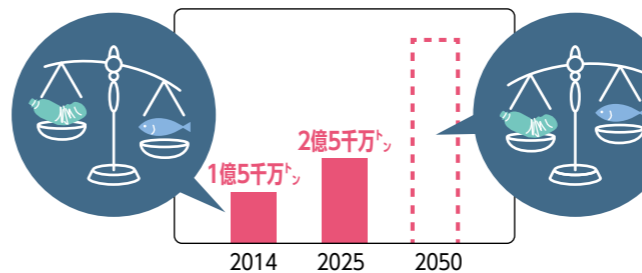
海のプラスチックごみ事情

世界の海には、毎分、ごみ収集車**10台分のプラスチックごみ**(約15ト)が流れ出ています。*1



2014年時点で海には1億5千万ト以上のプラスチックごみがあると推定されています。

何も行動を起こさない場合、海へのプラスチックごみの流出量は、2030年には2倍、2050年には4倍になるとされています。このまま、海への流出が進むと2050年の海では、**魚*3よりもプラスチックごみが多くなる**(重量比)といわれています。

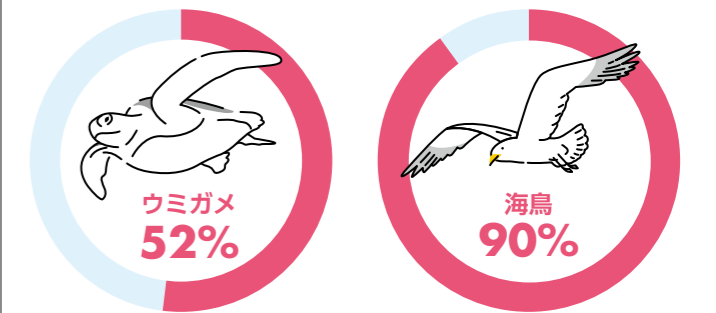


*1 ごみ収集車の積載量を1.5トとして算出
*2 推計値:470万ト～1270万ト、中央値800万トを使用
*3 2015年の魚資源を8億5千万トと推定
2050年までに乱獲などによって魚資源は減少すると仮定
(出典) The New Plastics Economy Rethinking the future of plastics (2016年1月 世界経済フォーラム)

海の生き物・私たちへの影響

魚や鳥、アザラシ、ウミガメなどの生物が廃棄されたプラスチック製の漁網などに絡まったり、ポリ袋を餌と間違えて食べてしまったりしています。

プラスチックごみを食べている割合



(出典) WWFジャパン

波や紫外線などで、5ミ以下の小さな粒子になった「マイクロプラスチック」は、生き物に悪影響があると心配されている残留性有機汚染物質(POPs)を吸着する性質があるといわれています。

POPsを吸着したマイクロプラスチックを生き物が食べてしまい、それらの生き物を人が食べることで体内のPOPs濃度が高くなり、人体に害が及ぶことも懸念されています。

